

2025 年 3 月 24 日

通貨ニュース

台湾：3 月金融政策会合～現状維持を決定も、経済成長見通しを下方修正

台湾中央銀行(CBC)は 20 日、金融政策会合を開催し、政策金利(ディスカウントレート)を据え置き、2.00%とした(図表 1)。政策金利の据え置きは 4 会合連続での決定。なお、ブルームバーグの事前予想でも現状維持が優勢だった。

金融市場部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

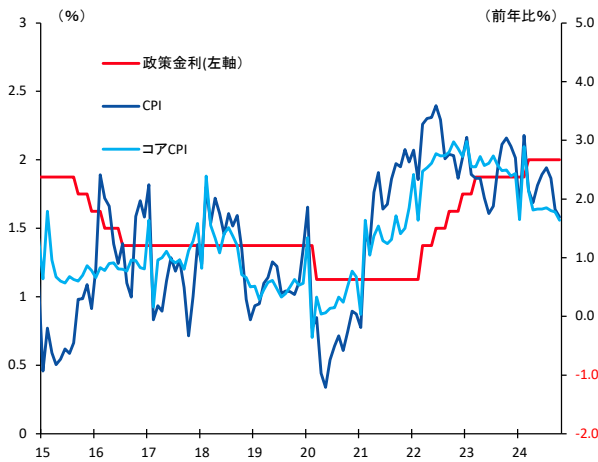
声明文では世界経済動向について、製造業・非製造業とも緩やかに成長が続き、資源価格の軟化に伴いインフレは減速基調にあると総括した。欧米をはじめ金融緩和の動きが続いていることは景気の追い風となるが、前回会合でも強調された米国の通商政策は先行きのリスク要因であるとして警戒を強めている。国内経済については、先述の関税リスクが残る中でも AI 関連産業を中心に輸出は堅調さを維持している(図表 2)。また、内需の動向をみると、小売売上高の動きは底堅さを保ちつつも、消費者心理は足許・先行きとも悪化傾向にあり、これも米国との貿易摩擦を懸念しているように映る(図表 3、4)。かかる中、25 年の実質成長率予想は従前の前年比+3.13%から同+3.05%に引き下げられた。

物価動向について、直近の 2 月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.6%、エネルギー・野菜・果物を除いたコア CPI は同+1.0%と安定的に推移している(図表 5)。コアベースについては 1 月から▲1.2%ポイント下落しているが、旧正月の影響でサービス価格が落ち込んだことによる一過性要因であると推測される。関税強化に伴う輸入インフレのほか、輸送費や水道光熱費の引き上げなど、複数のインフレ要因はあるものの、CBC は引き続き+2%近辺にインフレは収束するという見通しを示した。具体的に 25 年のインフレ見通しは同+1.89%、コアベースについては同+1.79%と予想している。

以上、CBC は先行きの景気動向を見極め、安定的な物価動向を維持するために現状維持を決定した。前回 12 月会合においても外部環境の変化を注視する姿勢を示したが、外部環境に対する不確実性は払拭しきれていないというのが実情であろう。楊 CBC 総裁は足許の経済・物価状況に鑑みて金融緩和に着手する状態には無いと総括した。なお、会合前には利下げ決定はインフレ動向次第だと言及しており、前年比+1.5%を利下げ検討の 1 つの目安としているようだ。そのため、金融政策を予想する上で、2 月 CPI の数字が本当に一過性に終わるかという点は改めて確認していく必要があるようだ。

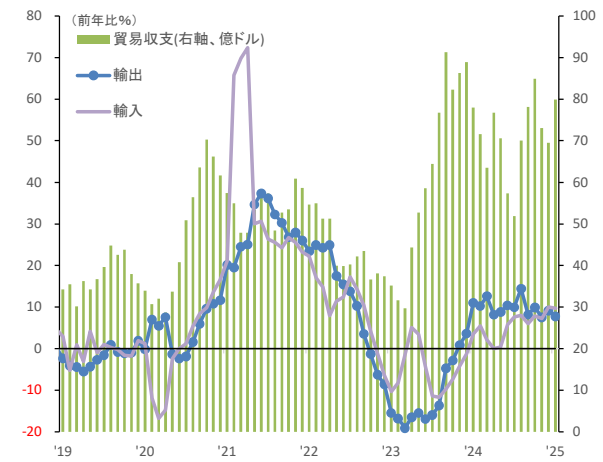
CBC 会合後の TWD の反応は大きくなかったが、前日の FOMC における情報発信が意識されて TWD 安方向に動いている(図表 6)。FRB は経済・物価の先行き不透明感が強まる中でも、タカ派姿勢を維持しており、こうした思惑が為替相場に現れている。また、地政学リスクの観点からも台湾の政治・経済の両面におけるトランプ政権との関係構築に明確な進展がなく、この点も現在の積極的な TWD 買いに動きづらい状況に繋がっていると推察される。

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

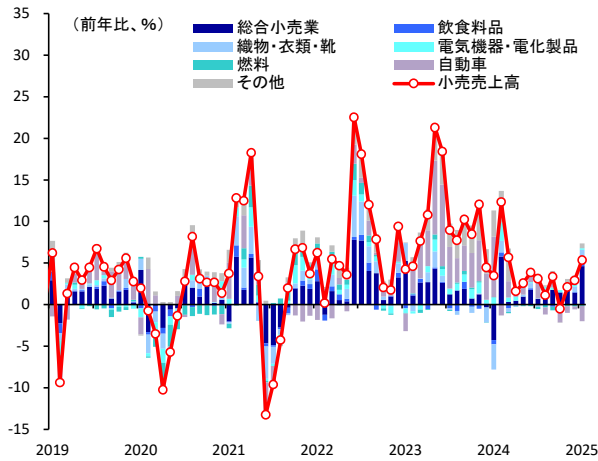
図表 2: 貿易収支の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

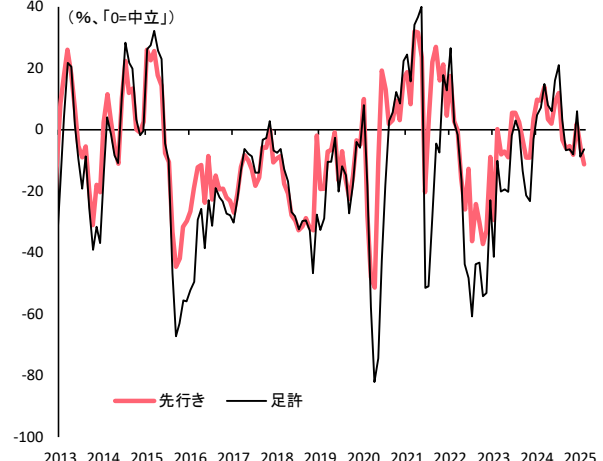
※後方 3 か月移動平均を用いて算出

図表 3: 小売売上高の動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 消費者信頼感の動向



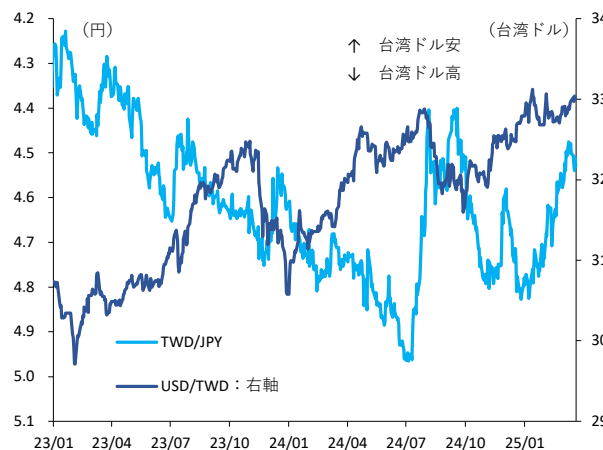
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 5: 消費者物価指数の推移



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 6: TWDと人民元の動向（対ドル）



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。